

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

※選択可能

外壁用塗膜防水材料 (JIS A 6021)

セブンウォール

着色

防水

高耐久アクリルゴム系
ロングセラー塗膜防水材料



株式会社 セブンケミカル

外壁用塗膜防水材料 (JIS A 6021)

セブンウォールシリーズ

防水性に優れた高耐久アクリルゴム系樹脂を多く含むセブンウォールは、

壁面の損傷劣化に対する緩衝材として長期に渡り外装を保護。

建物の長寿命化と維持コストの低減、住宅の財産価値の維持向上が図れます。

特長



厳しい自然条件の中でも 安定した性能

セブンウォールはアクリルゴムを主成分としており、長期間躯体の亀裂に追従することで高い防水性が得られ、塗装面へのひび割れの心配がなく、厳しい自然条件でも安定した性能を保ち続けます。



気密性が高く、 有害因子をしっかりと遮断

炭酸ガス等の有害因子による下地の中性化防止及び塩害に対する遮断性能に優れています。



環境に配慮した 完全水系システム

光化学オキシダントやPM2.5の原因物質のひとつが揮発性有機化合物 (VOC) で、その発生源は塗料からの揮発が占める割合が全体の約4割を占めると言われています。セブンウォールシリーズはVOC放出量を削減した完全水系システムで環境にも配慮。

※溶剤仕様も選定できます。



劣化外力から保護し、 美観を維持

セメント系各種材料への接着性が良く、新設から改修まで、さらに経年で老朽化したタイル張り仕上面等、幅広い塗装仕様で躯体を厳しい劣化外力から守り、美観を維持します。

〈施工例〉





適用下地

- コンクリート面
- モルタル仕上げ面
- ALCパネル面など各種セメント系成型パネル
- 各種既存塗装面
- タイル張り仕上げ面

標準塗り工程数

- 3層5工程
(詳しい施工については施工要領書をご確認ください)

樹脂の種類

- アクリルゴム系(主材)
- アクリルシリコン樹脂(上塗り)

塗膜の仕上がり

- なみがた仕上げ
 - 吹付け仕上げ
- ※上塗りは日本塗料工業会の見本帳合わせ。

半世紀の実績＝信頼性の証明。

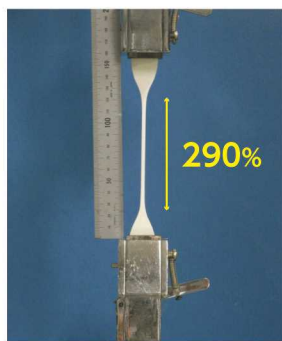


半世紀の実績は信頼性の証明。

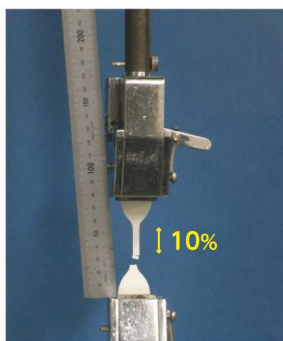
追従性・伸張性

アクリルゴムを主成分とし、長期間躯体の亀裂に追従することで高い防水性が得られ、塗装面へのひび割れの心配がありません。また、塗膜伸長性能が高いため外壁タイル等の落下防止にも効果が見られます。

つかみ間の伸び率(23℃)性能比較



セブンウォール



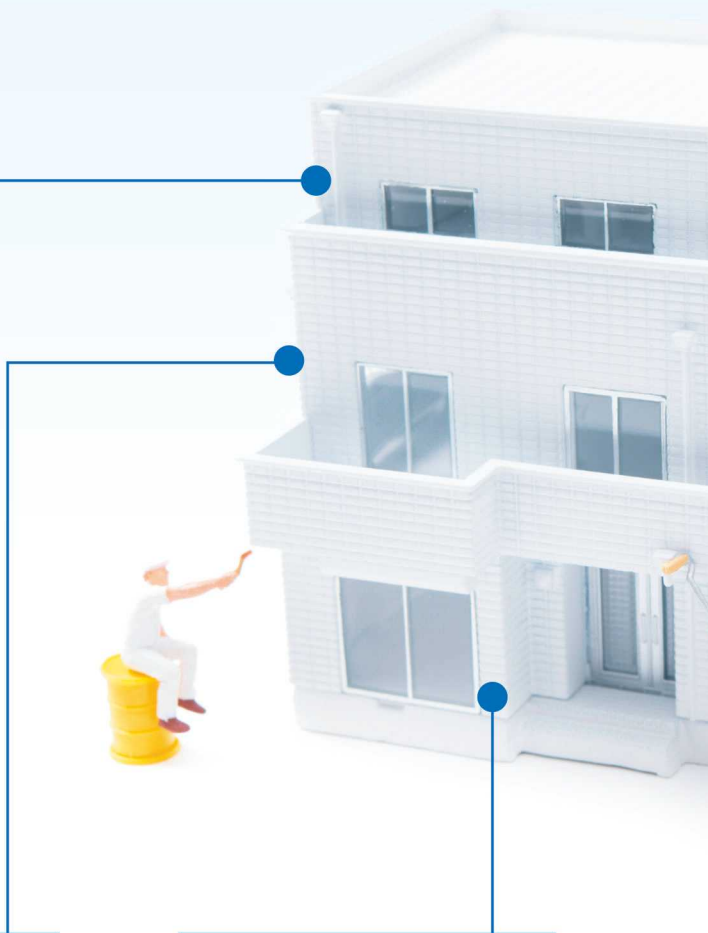
微弾性フィラー

低い環境負荷

ホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆、環境負荷を低減した完全水系システム。周囲や作業者の健康を守ります。

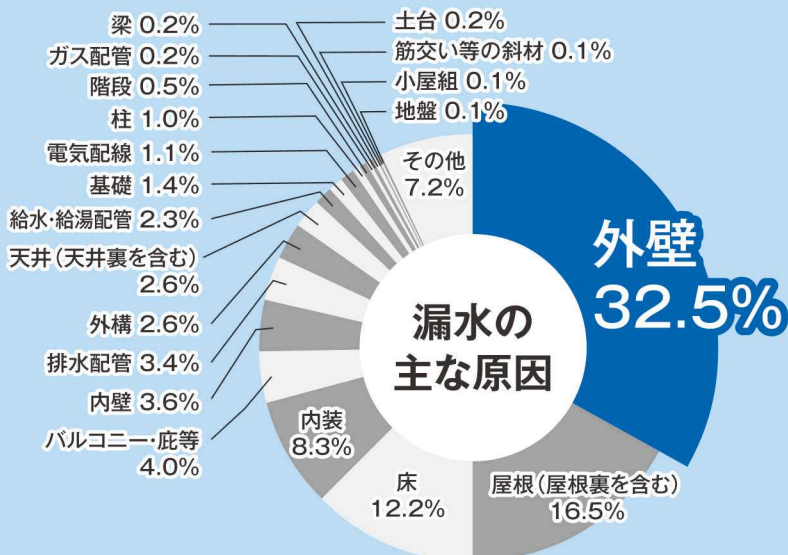
耐寒・耐熱性

厳しい自然条件下でも安定した性能を保ちます。

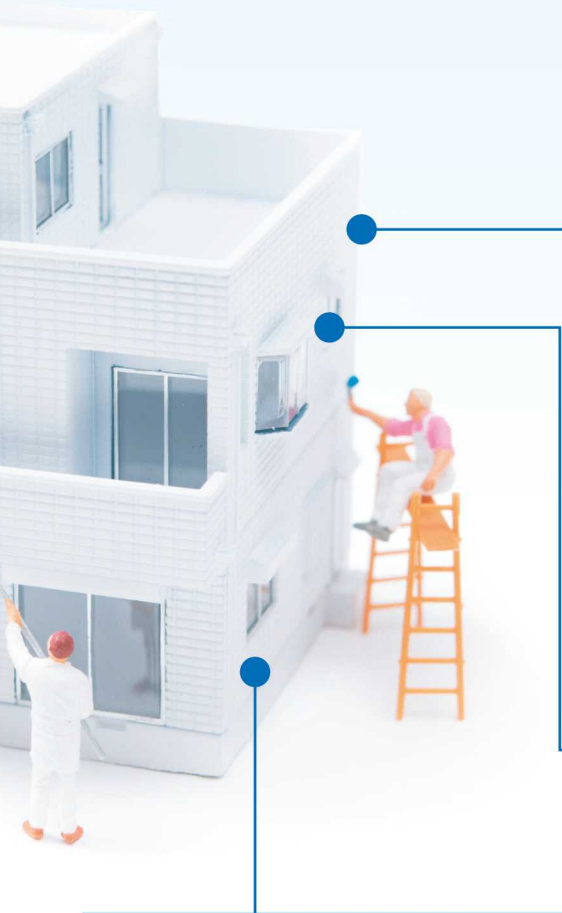


長期的な外装を意識して

建物には長期維持保全のために定期的な改修工事が必要です。ところが、現状では改修時期になってはじめて工法を考慮することが多いようです。雨、風、四季や朝晩での温冷繰り返し、地震や地盤状況から壁面に損傷劣化を受けづらくする緩衝役として、セブンウォールは高耐久アクリルゴム系樹脂を多く含むこと、高耐候低汚染上塗りと合わせ、同一製品でメンテナンスサイクルを延ばし、世代を引き継ぐことが可能です。



セブンウォールが選ばれる理由。



遮断性

気密性に優れ、炭酸ガス等の有害因子による下地の中性化を防ぎ、塩害を遮断。躯体を厳しい劣化外力から守ります。

外部要因に対する遮断機能

	透水性 (m ϕ)	気密性 (cc/m \cdot mmHg)	遮塩性 (cm/sec)
セブンウォール	0.0~0.1	2.9×10^{-4}	1.4×10^{-11}
コンクリート	72	1.4	6.0×10^{-8}
コンクリート 相当厚み	720mm	3~5m	1~4.3m

美観の維持

アクリルゴムと高耐候低汚染性上塗りのコラボレーションで、建物の長寿命化と維持コストの低減、住宅の財産価値の維持向上が図れます。

施工性

工程はシンプルな5工程。セメント系各種材料への接着性が良く、新設から改修、また、経年劣化したタイル張り仕上面等、幅広い塗装仕様が選択できます。

トラブルが起きやすい箇所

●目地部

シーリング材が経年劣化で硬化、剥離・破断

●開口部回り

コーナー部のコンクリートはひび割れしやすい

●デザイン性重視で庇がないマンション外壁

雨が外壁に直接当たり、外壁からの漏水原因になりやすい

コンクリートのひび割れ原因

いずれも原因は「水」

- 乾燥収縮
- 凍結膨張
- 腐食・中性化・塩害
- アルカリ骨材反応
- 打継ぎ部等の隙間やシーリング材による線防水の隙間への水の侵入



セブンウォールの性能

JIS A6021 建築用塗膜防水材 外壁用アクリルゴム系性能試験に準拠

試験項目		規格値	試験結果	
引張性能	引張強さ(N/mm)	試験時温度 23℃	1.3以上	
		試験時温度 -20℃	1.3以上	
		試験時温度 60℃	0.40以上	
	破断時の伸び率(%)	試験時温度 23℃	300以上	
		破断時のつかみ間の伸び率(%)	試験時温度 23℃	180以上
			試験時温度 -20℃	70以上
試験時温度 60℃	150以上			
引裂性能	引裂強さ(N/mm)	6.0以上	12	
加熱伸縮性能	伸縮率(%)	5 -1.0以上 1.0以下	-0.7	
劣化処理後の引張性能	引張強さ比(%)	加熱処理	80以上	
		促進暴露処理	80以上	
		アルカリ処理	60以上	
	破断時の伸び率(%)	加熱処理	200以上	
		促進暴露処理	200以上	
		アルカリ処理	200以上	
伸び時の劣化性能	加熱処理	いずれの試験片にも ひび割れ及び著しい変形が あってはならない	異常なし	
	促進暴露処理		異常なし	
	オゾン処理		異常なし	
付着性能	付着強さ(N/mm)	無処理	0.70以上	
		温冷繰返し処理後	0.50以上	
耐疲労性能		いずれの試験片にも塗膜の穴あき・裂け・破断が あってはならない	異常なし	
たれ抵抗性能	たれ長さ(mm)	いずれの試験体も3.0以下	たれなし	
	しわの発生	いずれの試験体にもあってはならない	異常なし	
固形分(%)		表示値±3.0	71.5	

その他注意事項

- セブンウォールシーラー#200、セブンSシーラー、セブンウォールトップMSマイルドは溶剤系のため火気に十分注意し、室内に保管してください。
- 水性セブンウォールシーラー、水性セブンウォールトップ W-SSは凍結に注意し、室内に保管してください。

廃棄方法

- 法規に従って、都道府県の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託してください。

荷姿

製品名	容量	液型	成分
セブンウォールシーラー#200	16kg	1液	溶剤
水性セブンウォールシーラー	15kg	1液	水性
セブンSシーラー	14kgセット	2液	強溶剤アクリルシリコン樹脂
	4kgセット		
水性セブンSシーラー I	15kg	1液	水性ナノカチオン
	4kg		
スーパーセブン	6kgセット	1液	水性
セブンウォール主材	18kg	1液	水性
セブンウォールトップMSマイルド (艶有・半艶・3分艶)	14kgセット	2液	弱溶剤アクリルシリコン樹脂
	3.5kgセット		
水性セブンウォールトップW-SS (艶有・半艶・3分艶)	15kg	1液	水性
セブンウォールトップマイルドシンナー	16L	1液	弱溶剤
	4L		

標準塗装仕様・製品情報

セブンウォールの標準塗装仕様

工法	工程	事前調査 (下地調査を十分に行い、施工条件に沿って作業してください)						
共通 下塗り 種類	1つ選定		希釈 (重量%)	所要量 (kg/㎡)	工程時間 (H)	施工方法 中毛ウールローラー 刷毛		
	1	水性 1 液	水性セブンウォールシーラー	無希釈	0.15		2 ~ 48 (塗剤シーラーの増塗・ 2回塗は当日中)	
		強溶剤	セブンウォール# 200 シーラー	無希釈				
		水性 1 液 (タイル面)	水性セブンSシーラー I	無希釈	0.1			
		強溶剤 2 液 (タイル面)	セブンSシーラー	無希釈				
※ ¹	2	下地拳動緩衝材	スーパーセブン	無希釈	0.5 以上	3 ~ 48	多孔質ローラー・刷毛	
※ ²	3	増し塗り	セブンウォール主材	0 ~ 2	0.5 ~ 1.0	3 ~ 48	多孔質ローラー・刷毛	
主材 塗り	4	ゆず肌 玉吹き 仕上げ	基材吹き	セブンウォール主材	水道水 0 ~ 5	1.0 ~ 1.7	5 ~ 48	リシンガン
		5	基材吹き	セブンウォール主材	水道水 0 ~ 5	0.7 ~ 1.0	16 ~ 48	リシンガン、タイルガン
	4	なみ型 仕上げ	基材塗り	セブンウォール主材	水道水 0 ~ 5	1.0	5 ~ 48	粗目多孔質ローラー
		5	基材塗り	セブンウォール主材	水道水 0 ~ 5	1.0	16 ~ 48	
	共通 上塗り	6	標準型水性 1 液	水性セブンウォールトップ W-SS	水道水 5 ~ 10	2 回塗り 計 0.24	3 ~ 48	中毛ウールローラー 刷毛
7		標準弱溶剤 2 液	セブンウォールトップ MS マイルド	MS マイルドシンナー 0 ~ 10				

- 下塗りは下地の状態により所要量が異なります。吸込の大きい場合は、増塗りまたは 2 回塗りしてください。
- 詳細は施工要領書にてご確認ください。
- セブンウォール主材塗りは所定の厚みが確保できるよう、多孔質ローラー粗目によりダレ、ピンホール、及び塗り直しのないよう塗り付けてください。

- ※1 下地調整は公共建築改修工事標準仕様書に従って処理してください。スーパーセブンを使用する際の下塗りは水性セブンウォールシーラーとなります。
- ※2 増塗りを行う部位はPC、ALC 版などの継手目地、建具回り、貫通部回りなどの防水上重要な部位、出隅、入隅、目地部など膜厚の薄くなりやすい部位、開口部回りなどのひび割れが発生しやすい部位、下地の動きが激しい部位です。

施工上の注意

1. 施工条件

- 気温 5℃以下、湿度 80%以上の施工は、造膜性に支障をきたすことがありますので、施工は避けてください。
- 新設下地の乾燥期間は 4 週間以内とし、表面を十分乾燥させるとともにアルカリ度 PH10 以下になってから施工してください。
- 降雨、降雪、結露のおそれのある時は施工を避けてください。
- 強風の時は作業安全及び飛散防止のため、原則的に施工は避けてください。
- 各作業前には必ず、十分な下地乾燥を確認してください。

2. 下地調整

- 下地は十分に乾燥させて、下地表面に付着している塵埃その他セメントノロ、エフロ粉、型枠離型剤等は除去してください。
- 下地の不陸や豆板等の段差やピンホールは、サンダー掛け、段差修正等を行って下地を平滑にしてください。
- 改修の場合、既存下地の老朽化した部分及び脆弱な部分は除去し、凹部、ひび割れ等を補修し、施工してください。

3. 養生

- 養生は十分行ってください。

4. 施工前の注意

- 居室等内装で使用する場合、塗装時や塗料取扱い時には通気換気を十分に行ってください。
- 施工に入る前に試験吹きを行い、パターン、色を十分に確認してください。
- 下塗材、上塗材に溶剤系材料を使用する場合、施工時は保護具等を着用し、安全には十分に注意してください。
- この製品を取り扱う前に、必ず安全データシートをお読みください。

5. 下塗り

- 下地の吸込みムラを防止し、下地と主材との接着をより強固にするために、下地に合わせシーラーを選定し、下地面に均一に十分塗付けてください。
- 所要量は、下地の吸込み状態により変動いたしますが、吸込みが大きい時は下塗りを再塗装し、接着不良・パターンムラなどを防止してください。(溶剤系シーラーの増し塗り、2 回塗りは当日中にしてください。)

6. 主材塗り

(A) なみ型仕上げ

- セブンウォール主材を均一にムラなく塗付けします。基材塗りでの塗膜は防水層としての機能を保たせるもので、十分塗付け量に注意し均一に仕上げてください。
- 建物のコーナー部分等の均一塗付けが難しい部分は、あらかじめ刷毛塗り等を行い、十分な塗膜厚を確保してください。

(B) ゆず肌・玉吹き仕上げ

- 1 日目の基材吹きを乾燥させた後、パターンを形成するためセブンウォール主材を規定量塗付けてください。
- パターンによって施工具・塗付具・希釈量が異なります。
- 開缶後は上下層を攪拌機で気泡の入らないよう均一に混合しご使用ください。

7. 上塗り

(A) 水系上塗り

- 水性セブンウォールトップ W-SS は主材層の汚れを防ぎ、美観を保持するために使用します。水性セブンウォールトップ W-SS はダレ・ムラなどに注意して、ローラー・刷毛等で均一に規定量を 2 回塗りして仕上げてください。
- 水道水で 5 ~ 10% を加えて均一に攪拌した後、2 回塗りで合計塗付量 0.24kg/㎡ を使用して仕上げてください。

(B) 溶剤系上塗り

- セブンウォールトップ MS マイルドは主材層の汚れを防ぎ、美観を保持するため使用します。セブンウォールトップ種は、ダレ・ムラなどに注意し、ローラー・刷毛等で均一に規定量を 2 回塗りし仕上げてください。
- 所定の基材/硬化剤比率で混合後 0 ~ 10% を加えて均一に攪拌した後、2 回塗りで合計塗付量 0.24kg/㎡ を使用して仕上げてください。特に上塗り 1 回目に希釈を少なくして塗装しますと、施工時及び経時後、発泡現象を生じやすいので注意してください。



セブンケミカル

東京都港区芝公園2-4-1
芝パークビルA館12階 〒105-0011
TEL 03(6809)2597 FAX 03(6809)2598
<https://www.seven-chemical.co.jp>

